

2006年5月15日

札幌市中央区北9条西15丁目28番地196

株式会社ソフトフロント

代表取締役社長 阪口 克彦

(証券コード番号:2321)

ソフトフロント、OMA規格に準拠した「PoCライブラリ」の提供を開始

～ Symbian OS、Linux OS、Windows Mobile など様々な OS で開発が出来るマルチプラットフォーム対応～

株式会社ソフトフロント(本社:札幌市、代表取締役社長:阪口 克彦 以下、ソフトフロント)は、携帯電話で利用されるPoC(Push-to-Talk over Cellular)アプリケーションの開発が可能な「PoCライブラリ(仮称)」の提供を2006年5月より開始いたします。

現在、携帯電話通信の多くは音声通信を回線交換型(*1)で行い、データ通信はパケット交換型(*2)で行っていますが、今後、FMC(*3)対応の携帯電話の増加や、携帯電話で利用できる通信アプリケーションの増加によるデータ通信量の増大などが予想されます。この傾向に対応し、より効率的な通信を行うために、世界の各通信キャリアでは音声通信とデータ通信を同一のパケット交換型で行う AIPN(All-IP Network)化が進められています。そして、この AIPN 化のために、3GPP/3GPP2(*4)にて、IMS(*5)という携帯電話の SIP ベースのプラットフォームが標準化されています。IMSではパケット交換型の音声通信を行う際には呼制御に SIP を用いる事を規定しており、通信を伴う携帯電話のアプリケーションを開発する際には、IMS への対応が必須であるとされています。

PoC は IM(インスタント・メッセージ)機能や、プレゼンス機能と並んで、この IMS プラットフォーム上で使用できるアプリケーションの1つであり、発信者がトランシーバーのように、複数の相手に対して一斉に音声の発信をすることが出来ます。個人間では待ち合わせや簡単な連絡など、短いメッセージのやり取りに、法人内では、オフィスや工場、倉庫などで、多くの送信先に対して一斉に連絡を取る際などに利用され、携帯電話を利用した新しいコミュニケーション機能として注目されています。現在日本では、NTTドコモが「プッシュトーク」、au(KDDI)が「Hello Messenger」というPoCサービスを提供しています。

PoC のアプリケーション自体は、OMA(*6)によって規定されています。また、今後 PoC は音声の通話だけではなく、ビデオ通話の可能な「Push-to-X」への拡張も検討されています。

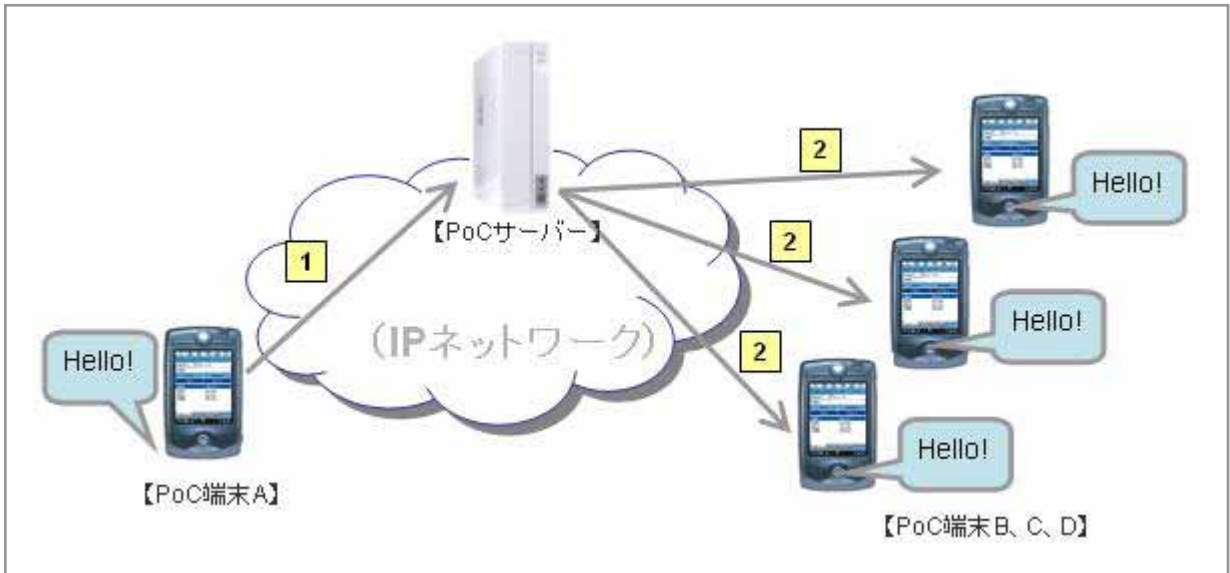
今回ソフトフロントが提供を開始した PoC ライブラリは、Symbian OS、Linux OS、Windows Mobile をはじめとして、携帯電話に採用されるほぼ全ての OS に対応しています。このライブラリを使用することにより、携帯電話端末メーカーやアプリケーション開発企業は OMA の規格に準拠した PoC 機能を容易に開発することが出来ます。

また、Symbian OS を採用している NTT ドコモの FOMA 端末「M1000」では当社にて既に実装を完了しています。

今後、世界の移動体通信網の AIPN 化の進展と、通信キャリアや携帯電話端末メーカーの AIPN への本格的な対応に伴い、IMS 関連市場は大きく広がることが予想されます。ソフトフロントはこの市場に対して、これまで培った SIP(*7)/VoIP(*8)技術を応用した技術・製品を積極的に提供し、世界市場での「デファクトスタンダード獲得」に向けて邁進してまいります。

【ご参考】

PoC の接続イメージ



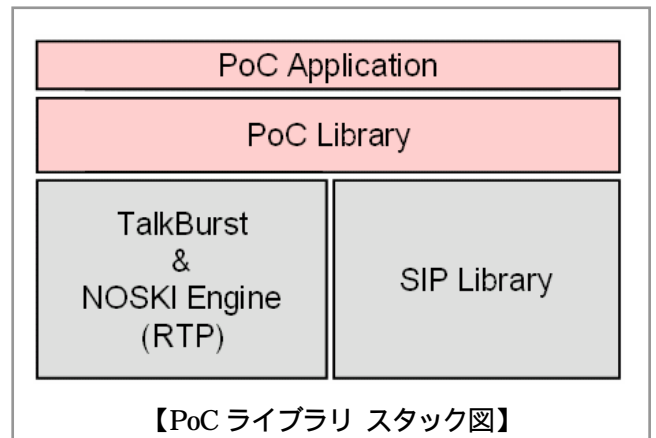
(PoC 音声通話の流れ)

- 1、通話相手を選択し、通話要求を発信。
- 2、選択された端末に対して音声配信される。

『PoC ライブラリ(仮称)』概要

- ・提供形態: NOSKI SIP Library のオプションとして販売
- ・対応 OS : Symbian OS、Linux OS、Windows Mobile
Windows、μITRON、VxWorks、など

Talk Burst : PoC アプリケーション利用時の発言権の取得・剥奪を行うライブラリ。



(*1) 回線交換型

アナログ電話や ISDN 電話のように、相手との通信回線が接続されたことを確認してから通信を行う方式。この方式では、通話中は両方で回線を 1 対 1 で独占して利用するため、一定の回線帯域が専有されるが、データ伝送の遅延が少ない。

(*2) パケット交換型

インターネットや IP 電話のように、送信するデジタル・データをパケットという単位に分割して通信する方法。この方式では回線交換のように通信回線を独占しない為、1 本の回線を効率的に利用することができる。

- (*3) FMC(Fixed Mobile Convergence)
固定電話と携帯電話の融合のこと。これにより、通信事業者が提供する固定電話と携帯電話のサービスを1つの端末で利用できるようになる。
- (*4) 3GPP/3GPP2(3rd Generation Partnership Project/3rd Generation Partnership Project 2)
第3世代、第4世代携帯電話の標準化プロジェクト。また、同プロジェクトによる移動体通信システムの標準規格。
- (*5) IMS(IP Multimedia Subsystem)
3GPP/3GPP2によって、標準化されている規格であり、新しい通信事業用ネットワーク。セッション制御にSIPを採用しており、データ・音声・モバイルのネットワーク技術をIPベースのインフラストラクチャ上に融合させることにより様々なマルチメディアサービスを実現可能とする。
- (*6) OMA(Open Mobile Alliance)
世界各国の移動体通信関連企業から構成され、モバイルアプリケーションの技術を規定する業界団体。
- (*7) SIP(Session Initiation Protocol)
IP電話、ビデオ会議などを実現する新しいプロトコル(RFC3261)。Webの技術として有名なHTTPと同様にテキストベースであり、シンプルで拡張性が高いことから、IP電話の標準的なプロトコルとして利用されている。最近では、その特徴を生かしてデジタル情報家電などへの搭載が目目されている。
- (*8) VoIP(Voice over Internet Protocol)
IPネットワークを利用した音声通話の技術一般を指す。現在、注目されているIP電話は、この技術を応用したものの。

記載されている会社名、製品名は一般に各社の商標または登録商標です。
掲載文中では、TM、(R)マークは原則として明記しておりません。

【プロフィール】

株式会社ソフトフロント

1997年設立のソフトウェア開発企業です。SIPとVoIPを核技術とし、業界から本分野の核技術の提供企業として注目されています。「技術を愛し、技術を提供することによって、社会変革の牽引役となり、豊かな社会を実現すること」を企業理念として、事業を展開しています。また、業界標準プロトコルであるSIPに早くから注力しており、様々な技術とノウハウを蓄積してまいりました。現在は、これまで培ってきたSIPとVoIPに関する技術やノウハウを多数のメーカーやシステム・インテグレーターに提供し、それらのパートナー企業を通じて当社技術の普及を図る「SIPパートナープログラム」事業に注力しています。さらに現在は、各種CPU/OSベンダーとの連携により、SIP開発環境の拡充を図っております。

URL: <http://www.softfront.co.jp>

【リリースに関するお問い合わせ先】

株式会社ソフトフロント

管理本部 広報担当

(札幌本社) 内海 電話:011-623-1035 FAX:011-623-1002

(東京本社) 中村 電話:03-3568-7007 FAX:03-3568-7008

E-mail: press@softfront.co.jp

【本製品に関するお問い合わせ先】

株式会社ソフトフロント

SPP事業本部 営業グループ

電話:03-3568-7009 FAX:03-3568-7008

URL: <http://www.softfront.co.jp/spp/enquiry.html>